

PRO MUSICA NIPPONIA

日本音楽集団

第126回◆定期演奏会 ～秋の総合定期～

みずみずしい浪漫 三木稔^{とき}の季

1992年11月24日(火) 午後7時開演
津田ホール

主催／日本音楽集団

〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302

助成／アサヒビール芸術文化財団

制作協力／奈良音楽事務所

プログラム

三木稔作品集

一、古代舞曲によるパラフレーズ (1966年)

前奏曲 — 相聞^{そうもん} — 田舞^{たのまい} — 誄歌^{るい か} — 嬢歌^{か がい}

[ソプラノ・ヴォーカリーズ] 宇佐美瑠璃
[篠 笛] 竹井 誠
[尺 八] I = 坂田誠山・藤崎重康 II = 米澤 浩・添川浩史
[三味線] 細棹 = 野口美恵子 太棹 = 田中悠美子
[琵琶] 田原順子
[箏] I = 吉村七重・熊沢栄利子 II = 内藤洋子・大畠菜穂子
[十七絃] 宮越圭子・山田明美
[打楽器] 尾崎太一・高橋明邦
[指揮] 飯森範親

二、わ (1976年、カーネギーホール初演)

[尺 八] 坂田誠山 [三味線] 簗田司郎
[琵琶] 田原順子 [箏(21絃)] 吉村七重
[十七絃] 宮越圭子 [打楽器] 尾崎太一

— 休 憩 —

三、黄^きの鐘^{かね} (1992年度委嘱初演)

神話時代 — 古代 — 中世 — (戦国時代) — 近世 — 近・現代 (但し、全曲休みなく演奏されます。)

[ソプラノ] 宇佐美瑠璃
[篠笛・能管] 竹井 誠 [籠笛・笙] 西原貴子
[笙] 大窪悦子(助演)・川島美穂(助演)
[ひちりき・笙] 西原祐二
[尺 八] I = 坂田誠山・藤崎重康・水谷雅康 II = 米澤 浩・添川浩史・石田忠史
[胡 弓] 畦地慶司
[三味線] 細棹 = 原田富士江 中棹 = 坂井敏子 太棹 = 田中悠美子
[琵琶] 田原順子
[箏(21絃)] I = 吉村七重・熊沢栄利子 II = 内藤洋子・山田明美
[十七絃] 宮越圭子・大畠菜穂子
[打楽器] 西川啓光・高橋明邦・望月太喜之丞
[指揮] 飯森範親

客演プロフィール

飯森 範親 (指揮)

桐朋学園在学中に東京国際指揮者コンクールで優勝した他、プザンソン国際指揮者コンクール2位、マスタープレイヤーズ国際コンクールでは指揮部門での優勝と併せて全部門を通じた最優秀賞マスタープレイヤーズ大賞を受賞した。海外での活躍の場も多く、89年にはユーロパリアに招聘された日本音楽集団と同行し、賞賛を博した。内外のオーケストラでの活躍に加え、最近ではオペラ指揮者としての実績を着々と築いている。

宇佐美瑠璃 (ソプラノ)

芸大及び大学院を卒業後、ミラノに8年間留学し、その間、ミラノでP.M.フェラーロ氏、パリでR.クレスバン氏に師事。シチリアのベルリーニ国際音楽コンクールで入賞した他、ミラノで「蝶々夫人」のタイトルロール、ラジオ・メネギーナで「オテロ」「トスカ」の主役を演じ好評を博した。国内でも「皇帝ティトの慈悲」、「椿姫」、「ファウスト」、「フィガロの結婚」等の重要な役を演じ高い評価を得、特に今春「ワカヒメ」初演のタイトルロールは絶賛された。

平和の使者 日本音楽集団と共に

三木 稔

10月半ば、私はコペンハーゲンに向うSASの機内でこれを書き始めた。近頃は機内のスクリーンに飛行径路が刻々と映し出される。ロシアの上空をきれいな放物線を描いてきたフライトがレニングラードを過ぎて突然北に変進した。そのままバルト諸国の上を飛ぶと思っていた私は一寸驚いた。大韓航空機を想ったのだ。2年前だったら乗客は皆緊張したであろう。が、機内は静かなものだ。平和は素晴らしい。

私が日本音楽集団の第1回の海外公演を夢見て行動に移った1968年にパリの五月革命とチェコ事件が続いた。その年初めてヨーロッパを旅行した私にとって、彼地の風物は私の既得の知識を超えることはなかったが、世界中で立ち上ろうとする反権力の波に感動し、帰国後〈はばたきの歌〉を集団に書いた。'72年に実現した第1回の海外公演で、責任者の私が心配していたのはザグレブだ。クロアチアとセルビアは当時も危機を孕んでいた。'74年東南アジア公演途中のサイゴンは砲声の中の公演であった。東西政治体制の融合を望んでケヴァントハウス管弦楽団との共演に捧げた'81年の〈急の曲〉が、'89年のベルリンの壁崩壊を予告した作品であると評価されたのは嬉しかったが、その直後北京で天安門事件に遭遇し、現地で細かくつめていたその秋の中国での日中共演が中止に至った時は芸術の宿命を深く考えさせられた。人権問題を強く指摘できない政治に代って、集団ではなかったが弦楽合奏の〈北京挿歌〉を書き、香港から放送した。

'84年に、20年間の青春を賭けた集団を退いて、主としてオペラの領域で新たな種蒔きをしている私だが、団外にあっても、集団の主として海外での仕事には関与してきたし今も幾つか企画が進んでいる。外国の方々が寄せて下さる信頼には応える義務があるからだ。また、こうして久しぶりながら私の作品のみでのコンサートを後輩たちが催して下さることも格別に嬉しい。が、期待されて責任も背負っている。

プログラム私案は、初期の〈古代舞曲によるパラフレーズ〉、'81年作で昭和の戦争犠牲者への〈コンチェルト・レクイエム〉と新作であった。それが集団史での私の作風の変遷を端的に示すものであり、また集奏（集団編成での演奏）で一夜を通す時のモデル・ケースとの確信からである。希望通りにはいかなかったが、その分、20年間に私たちが出会ったさまざまなポリティカルなシーンでの、私の持ち続けた信念にそって〈黄の鐘〉を書くパッションに転換した。

コペンハーゲンから帰りの機内で今まとめている。デンマーク国立放送交響楽団委嘱の〈Zコンチェルト〉初演に立会ってきたのだが、ヨーロッパ人には異質のはずの阿波踊りに由来する〈凸〉の後半のリズムや旋律をコンバートした曲は、圧倒的な演奏で全聴衆のスタンディング・オベーションで迎えられた。〈凸〉の今後にプラスするはずだ。

日本音楽集団は、各自が独奏しながら自然に大きな合奏表現ができる団体でありたいと私は思っていた。これからも、魅力ある大粒の東洋の真珠たちであって欲しい。

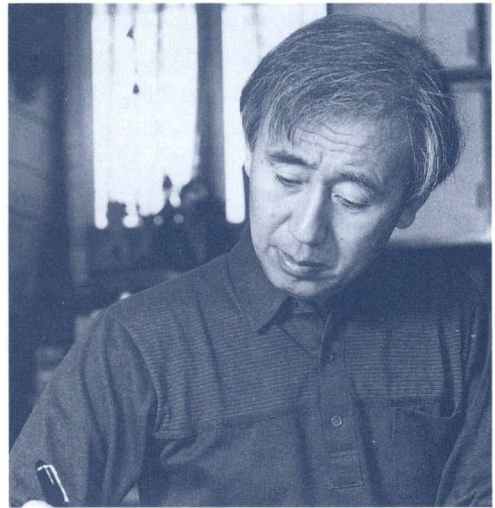


photo by 堀田正実

三木稔 プロフィール

日本音楽集団創立以来20年間作曲・音楽監督や各種プロデュースを行う。その後オペラに創造の場を移し、〈春琴抄〉〈あだ〉〈じょうりり〉〈ワカヒメ〉といった大作と並行して、自ら主宰するオペラシアター『歌座』によるユニークな活動を展開中。

邦楽器とオーケストラを結ぶ記念碑的な《鳳凰三連》のCDが最近カメラータより発売された。

一、古代舞曲によるパラフレーズ

NHKの委嘱により作曲され、1966年10月に行われた第4回定期演奏会にて舞台初演。以後再演を重ね、創立初期から今日に至るまで、集団の代表的レパートリーの一つに数えられている。洋楽的センスと書法を前面に打ち出した邦楽アンサンブルの新しい形態、ソプラノヴォーカリーズのマッチングは、当時の現代邦楽界に大きな衝撃を与えた。

全体は5曲からなる。〈前奏曲〉は、テーマの提示、展開、再現といった整った構成のもとに後続の4曲を予告し、これから起るドラマを聴き手に予感させる。〈相聞〉は万葉の恋の歌。ヴォーカリーズと能管・尺八が琵琶・箏にのって互いに呼び交し応答し合う。〈田舞〉は、豊作を祈願する田植神事舞で、篠笛・三味線以外の奏者は打楽器に持ち替えて皆で打ち囃すスケルトン風の曲。〈誄歌〉は葬祭の歌。地の底を這うような低音尺八の流れに、もう一管の尺八と箏群の激しい慟哭がからみつく。〈囃歌〉は恋愛・求婚が行われた男女の群集歌舞。遠いざわめきのような弦のオスティナートが打楽器とともに次第に高まり、ヴォーカリーズと管が狂おしく出現して妖しい祭りの場が繰り広げられ、やがて何処へともなく去って行く。

日本の伝統楽器は、抑圧的な制度の下で自己の拠り所であった“型”を遵守することによって、互いに無関心な、閉鎖的歴史を個別に掘り下げていった。その過程で失われてしまった楽器本来のいきいきした表情や自由な精神を取り戻すべく、作曲者の目は音の上では伝承の外にある想像の古代に向けられた。「健全な情緒と慟哭と開放された性に満ちた生命力溢れる世界にこそ、虚弱で衰弱した現代が回帰すべき明日を予感せずにはいられなかった」と熱い思いが記されている。

西洋のオーケストレーションを安易にとり入れる“錯誤”に陥ることなく旧弊を打破することに成功したこの作品は、なぜその時に邦楽器でオーケストラしなくてはならなかったのか——という日本音楽史の1シーンに於ける必然性と、集団創立者たちの新しい音に賭けた情熱を今も我々に伝えてくれている。一連のオペラ執筆、歌座主宰といった現在の作曲者の声と器楽を共存させる活動を暗示している点でも興味深い。(田中悠美子)

二、わ

集団のソリスト達による小編成のアメリカ公演のため1976年に作曲され、初演は同年2月トロントで行われた。数日後のニューヨーク：カーネギーホールでの演奏会が最大の行事となり、以来小編成での海外公演の際、客席とステージが一体となることから好評を得、団内でも再演を重ねている。

タイトルは、平和の和、日本の和、手をつなぐ輪、驚きのワッなどの意味を併せ持ち、それら全てが表現内容に投影されている。合奏の様式は一貫してヘテロフォニーにより、全体が即興的なムードを持つ。十七絃ソロで始まる一定した拍節構造を持たない前半は、縦の線を合せるタイミングについてはポイントさえ合せば、あとは互いの見計らいで即かず離れず状態で進行してよいことになっている。また、各楽器の個性が発揮できるようにアゴーギグやダイナミクスについては各人の自由意志が尊重されている。作曲者のルーツである〈阿波踊り〉のビートにのった後半は、基調となる音列が全楽器のフィギュレーションを活かした方法でアトランダムに鳴らされたあと、二十絃、打楽器、琵琶の三者が口火を切り、賑やかなテュッティに突入する。一旦静まり尺八ソロになるが、再び盛り上がり、各奏者が次々にカデンツァを繰り広げる大詰めは、演奏の度に何がとび出すか判らない楽しみな即興部分となり、今回も客席を巻き込むホットな演奏が期待される。最後のオチも見逃せない(!?)。

この作品には、開放的に個性を主張する中での邦楽器アンサンブルのあり方への指針が示されている。日本の古典がいつからか失ってしまった柔軟性、弾性を取り戻し、古い型を捨てて今日の我々が伝えたい内容に見合った新しい型——日常的現実の音——を探り当てるために、即興はもっともっと多くの人によって、何回も繰り返されなければならないであろう。(田中悠美子)

三、黄の鐘

日本音楽集団のための11年振りの集奏楽。神話時代・古代・中世・近世・近代を経て現代に至る日本史の流れを、雅楽器・邦楽器そしてソプラノ・ソロによって音楽的に構築した。

私たち日本人は、平和な中で独得な文化を度々築きながら、周期的に無残な殺戮を繰り返してきた要注意民族である。そして今、第二次大戦後50年近い平和と繁栄の中で、その危険を思う感覚は人々の中で次第に失われていく。戦前戦中の教育の中で、誤りを知り得ないまま戦いの悲惨を体験した私たち世代には、現在の平和の持続を願って成すべきことが沢山ある。久し振りの新作に私のエトスが命じたものは、やはりこの命題に添ったものであった。

黄鐘という音名がある。中国ではd、日本ではa。黄はアジアの色でもあり、また注意を促す強い色。そして鐘の響きは人の心をさまざまに打つ。上記の意図をつめていく中で、或時「黄の鐘」という名に着想し、楽案も急速に固まっていった。

私が在団中に集奏編成にとり込めなかった雅楽の楽器を加えられたのは発想を拓けるのに大いに役立った。また宇佐美瑠璃さんのソプラノ・ソロの参加を得て、戦争と平和の日本史を女の立場で描く視点を要所に挿入できたのは強いインパクトになると思う。男女の意識が初めて文献に現われたイザナミ・イザナギの叫び以降、今回の構想に沿う短い詞を求めていくと、おおらかだった上代の女性の発言が次第に封じられていく姿が見える。近世は無言に意味を持たせた。最も近く日本が犯した戦争に関しても、私は沢山の資料の中から遂に合目的の歌を発見できなかった。この部分私は、戦中戦後の事実に対して悲痛な母の叫びを自分で編むしかなかった。

各時代の音楽様式を想い、そのさまざまな香りを伝える努力をした。その中で例えば近代の部では、流入する西洋音楽の影響を端的に見せる部分も必要であった。尤も、二千年の歴史を三十数分で模写するのがこの作品の目的ではない。純音楽の型式として歴史の刻みを転用したまでである。人間や自然の営みは如何なる理論をも超えて私たちの心に迫る。

二十世紀後半及び近未来については、私は在団中言い尽してきた。今は唯、忘れんとする過去を聡明な若者たちに捧げ、自らにも問い続けようと思う。

——〈黄の鐘〉で使用したことば・詩歌——

神話時代	あなにやし えをとこを あなにやし えをとめを (古事記上巻三 伊邪那岐命と伊邪那美命)	——戦犯を問われた息子に なぜ なぜ お前が罪を 命じたものは誰 なぜ なぜ 真実を訴えぬ いつわりの大義のもと 召されたお前に 拒むすべはなかった 神さま 戦争って何 あの子は裏切られたのです
古代	恋ひ恋ひて逢へる時だに愛しき 言尽してよ長くと思はば (万葉集巻四 大伴坂上郎女)	——死刑執行を待つ息子に いま いま 黄の鐘が鳴る 奪われる私の宝 なぜ なぜ 裁くことができる 戦い合った 人が他人を(?) もう明日はない この母 神よ 私をお召し下さい あの子の代りに
中世	あはれさらば忘れて見ばやあやくに わが慕へばぞ人は思はぬ (風雅集 進子内親王)	ああ なぜ お前は近く ああ いま 黄の鐘が鳴る
近世	
近代—現代	『黄の鐘』 ——学徒出陣で出征する息子に なぜ なぜ お前は征く 志を捨てて なぜ なぜ わたしを置いて 祖国のため 正義のため(?) 誰が決めたのです そのようなことを 神さま あなたはむごい あの子を奪わないで	(三木稔)

三木稔の足跡

石田一志

三木稔が、日本の伝統の再生と民族的なアイデンティティの確立を唱えて、同志と共にジャンルや流派を超えた邦楽器のアンサンブルである日本音楽集団を結成したのは1964年で、彼の34歳の年のことであった。以後、20年の長きにわたって三木が「集団」のリーダーとして現代邦楽界を先導すると共に、13次160回に及ぶ「集団」の海外公演をプロデュースして、日本の楽器と日本の音楽の国際化のために尽力したことは周知の通りである。そしてこの20年間に、作曲家としての三木も大きな飛躍を遂げたのであった。

もちろん、「集団」以前に重要作品が無いわけではないが、彼には飛躍に至るまでのかなり長い滑走の時期があったことも確かだ。東京芸大在学中の53年、NHK管弦楽曲募集に「TRINITA SINFONICA（交響的3章）」で第2位を得たものの、南方の民族音楽や日本の民俗音楽、わらべ唄などに強く惹かれていた彼の作品は、学内のアカデミズムの強い批判を受け、卒業作品として書いた55年の12の管・打楽器のための「田の神の宵宴」は、教授陣の評価をまったく受けられなかった。洋楽への追隨に疑問を持つ姿勢は卒業後、一層強くなったが、しばらくは、音列主義や電子音楽の導入が専ら日本の楽壇の話題となっていた時期だけに、その姿勢が注目を受けることはなかった。

しかし、三木はこの時期、自分の音楽活動の原点であった合唱音楽の領域で、自分の理念を追求し、次第にその歌声をオリジナリティー強いものとしていった。そして62年の「合唱による風土記－阿波」、63年のバリトン独唱、男声合唱、管弦楽のための「レクイエム」、それに「集団」結成の直接的な契機となった同年の「くるだんど－奄美の旋律による混声合唱と邦楽器群のためのカンタータ」に至ったのである。

「交響的3楽章」から「くるだんど」までの10年間は、アカデミズムと前衛的傾向の両方から距離を置きながら、自己の進むべき道を探究した三木の創作期の第1期であった。

前代未聞の邦楽器アンサンブルである「集団」のために、前代未聞の日本的アイデンティティと国際的な普遍性をもった作品を書いたそれに続く20年間は、彼の第2期にあたることはいうまでもあるまい。その期に彼のオペラ近世三部作が含まれることも暗示的である。

「集団」を退いた三木は、オペラ・シアター「歌座」と室内楽団「結アンサンブル」を主宰すると共に、「北京持歌」(90)に示されるような国際的な「参加」の音楽、あるいは、オペラ「ワカヒメ」(92)に示されたような民族の歴史の検証、さらには日・韓・中のアジアの民族楽器オーケストラの創立といった、これまで以上に大きなスケールのテーマをもった活動を展開している。

今回、11年振りの「集団」のフル編成のための書きおろし作品である「黄の鐘」は、日本史を軸にこれらの新しいテーマを総合的に盛り込んだ大作として注目されよう。

チラシ協賛の御礼

このたび第126回定期演奏会を推進するに当たり、チラシ作製のための協賛をお願い致しましたところ、多くの方々からご支援賜りました。皆様方のご厚意に対し心より御礼申し上げます。

経済大国といわれながら、音楽集団が活動を継続して行くにはさまざまな厳しい現実が立ちふさがっていて、なかなか思うにまかせない文化環境といえます。私たちといえども同じことです。このたびの皆様のご厚意をはげみにして、さらに素晴らしい作品を生み、一層の音楽活動に邁進することを誓い申し上げます。

なお、受付が遅れたためにチラシには掲載できなかった方々を含め、ここであらためてご協力頂いた方々のご芳名を掲載させて頂き感謝の意を表したいと思います。

チラシ協賛を通じて、本団をご支援下さった方々
(五十音順・敬称略)

青柳 堯
稲垣 隆史
猪俣 カツ
小田切清光
影絵劇団かかし座 代表 後藤 圭
琴光堂和楽器店
佐藤恵美子
スクリップス・ラボラトリーズ(株) 益田富士雄
滝沢 修
友竹 正則
ニッポニアメイツ(世話人 工藤 秀也)
北越製紙(株) 殖田 春荘
明鏡楽器
(株)ユーラシア企画 代表 浜田 靖子
結の会
(株)ワダ楽器 代表取締役 和田貞夫

日本音楽集団の今後の主な予定

12月12日(土)	日本音楽集団コンサート〈邦楽器の玉手箱〉	新所沢公民館ホール
12月12日(土)	佐世保市制90周年記念コンサート	佐世保市民会館
12月15日(火)	坂戸公演※	坂戸文化会館
1993年		
1月22日(金)	埼玉音鑑コンサート	大宮ソニック・シティ
1月23日(土)	新春のおくりもの——日本音楽集団	かつしかシンフォニーヒルズ
1月28日(木)	第127回定期演奏会——第4回〈邦楽器の祭典〉	津田ホール
2月10日(木)	関市中学生音楽鑑賞会	関市文化会館
2月26日(金)	日本音楽集団若葉マークコンサート9	アコスタディオ
3月27日(土)	日本音楽集団演奏会	横浜市開港記念会館
3月28日(日)	久喜公演	久喜総合文化会館

日本音楽集団(1992年4月～1992年11月)の主な活動記録

4月19日(日)	〈やしろ鴨川さくらまつり〉で日本音楽集団演奏会 やしろ国際学習塾LOCホール(兵庫県社市)	
4月25日(土)	日本音楽集団コンサート アイリスホール(愛知県刈谷市)	
5月1日(金)	国分寺第四小学校音楽鑑賞会	
5月11日(火)	第123回定期演奏会——春の総合定期	芝ABC会館ホール
5月21日(木)	名フィル第174回定期で三木稔作曲〈急の曲〉を共演(指揮=M.アッツモン)	名古屋市民会館ホール
6月1日(月)	千葉県立大多喜高校音楽鑑賞会	
6月4日(木)、13日(土)	第18回民音現代作曲音楽祭で篠原真作曲〈夢路〉を東京混声合唱団と共演 4日—東京文化会館大ホール 13日—大阪国際交流センター	
6月15日(月)～19日(金)	佐賀県中学校巡回公演	
6月29日(月)～7月3日(金)	長崎県学校巡回公演	
6月30日(火)	第10回現代日本音楽の展開(国立劇場6月邦楽公演)で三木作曲〈古代舞曲によるパラフレーズ〉を演奏 国立劇場大劇場	
7月9日(木)	第124回定期演奏会—ファンタスティックコンサート—江戸音楽考察	津田ホール
7月13日(月)	相模原おやこ劇場日本音楽集団演奏会	グリーンホール相模大野
8月15日(土)	佐藤英彦作曲〈野州烏山城下町太鼓〉をレコーディング	
9月2日(水)	長万部公演	長万部町学習文化センターホール
9月3日(木)	新宿駅コンに出演	JR新宿駅
9月4日(金)～10日(木)	東北公演(4日—蟹田町、7日—天間林村、東北町、8日—大館、9日—弘前、10日—十和田)	
9月13日(日)	青龍寺金堂落慶記念昭和太夫ふれあいコンサート	青龍寺境内
9月14日(月)～21日(月)	日本一周クルーズ「飛鳥」船上コンサート	
9月17日(木)	日本音楽集団若葉マークコンサート8	アコスタディオ
9月19日(土)～10月3日(土)	劇団民藝公演の「吉野の盗賊」の音楽を集団が担当(作曲・長沢勝俊)	
9月24日(木)	釧路公演	釧路市民文化会館
9月25日(金)	北見公演(北見商業高校・北見緑陵高校)	北見市民会館
10月2日(金)	三沢公演	三沢市公会堂
10月4日(日)	大森ベルポート・ミニコンサート	大森ベルポート・アトリウム
10月6日(火)	第125回定期演奏会——秋のコンサート	朝日生命ホール
10月12日(月)～16日(金)	兵庫県学校巡回公演A	
10月19日(月)～23日(金)	兵庫県学校巡回公演B	
10月23日(金)	東大教育学部附属高校鑑賞教室	府中市市民会館
10月24日(土)	戸板学園鑑賞教室	
11月19日(木)	城北学園高校音楽鑑賞会	
11月24日(火)	第126回定期演奏会——秋の総合定期〈みずみずしい浪漫—三木稔の季〉 津田ホール	
11月26日(金)	フランス商工会議所パーティ	ホテルニューオータニ
11月28日(土)	浦和高校鑑賞教室	川口駅前リアホール
11月29日(日)	千葉土建20周年文化の夕	千葉市民会館

三木 稔 邦楽器作品表

年	曲名	編成	初演者	時間(分)	各種データ
1962	ソネット ★	尺3	東京尺八三重奏団(委嘱)	6	(出)全音 (レ)コロムビア、RVC
1963	くるだんど ★	混声合唱 笛、尺3、細、中、太、 十七、打3	東京混声合唱団 日本音楽集団(の前身) 指揮 横山千秋	15	(出)音友 (レ)コロムビア 南日本放送委嘱 (民放大会入賞)
1964	弦と日本楽器のための協奏曲 (陰旋によるアダジオ) (陽旋によるアレグロ)	尺3、細、琵琶、十三2、 十七、打2 弦楽合奏	日本音楽集団 アンサンブル・フライス 指揮 横山千秋	11 + 8	日本音楽集団第1回定期で初 演、後作品表より外す
1965	日本楽器のための前奏曲 ★	笛、尺2、細(+太)、 十三2、十七、打	日本音楽集団 指揮 三木稔	8	〈古代舞曲によるパラフレーズ〉 の一曲目となる
1966	二つの牧歌	笛、打3	日本音楽集団	5 + 6	初演後試作とする
	古代舞曲によるパラフレーズ ★ (前奏曲・相聞(そうもん)・田舞 詠歌(るいか)・耀歌(かがい))	笛、尺2、細(+太)、琵琶、 十三2、十七、打2 ソプラノ・ヴォーカリーズ	日本音楽集団 ソプラノ 増田睦美 指揮 横山千秋	28	(レ)コロムビア NHK委嘱
1967	四群のための形象 ★		日本音楽集団	22	(出)全音 (レ)コロムビア
	文様(あや)	十三2、十七	野坂・坂井・宮本	6	居機はNHK委嘱
	居機(いき)	笛、龍、尺2	向山・芝・横山・宮田	6	曲は'69 NHK委嘱で追加
	曲(くせ)	細、太、琵琶	杉浦・坂井・山田	6	
	擗(とう)	打2	田村・清水	6	
1968	はばたきの歌 ★	笛、龍、尺3(ひ)、細、 中、太、琵琶、十三2、 十七、打2 テナー、混声合唱	日本音楽集団 テナー 荒木宏明 日本合唱協会 指揮 横山千秋	22	(レ)コロムビア 後半部の詩は秋浜悟史
1969	箏(こと)譚詩集第一集 ★ (小さな序曲、あこがれ、冬の夜) (人形の子守唄、やがて春が)	箏ソロ(十三)	野坂恵子	16	(出)全音 (レ)コロムビア、ビクター、 カメラータ
	序の曲 ★	尺、二十、太、弦楽合奏 [註]二十絃箏舞台上に初 登場(10月24日)	横山勝也、野坂恵子、 坂井敏子、東京ソリスト 指揮 荒谷俊治	16	(出)全音 (レ)コロムビア (CD)カメラータ30CM223
	天如 ★☆	箏ソロ(二十) [註]二十絃箏最初の独奏曲(初演11月7日)	野坂恵子(委嘱) 指揮 横山千秋	16	(出)全音 (レ)コロムビア、カメラータ
1970	孤響 ★	尺八ソロ	横山勝也	12	(出)全音 (レ)コロムビア一委嘱
	凸(三群の三曲と日本太鼓 のための協奏曲) ★	笛、尺2、細、太、琵琶、 二十、十三、十七、打	日本音楽集団 指揮 秋山和慶	24	(レ)コロムビア一委嘱 ——★印の作品を収録したコロム ビア・レコード「日本音楽集団による三木稔の音楽」('70)が芸術祭大賞——
1971	佐保(さお)の曲☆・竜田(たつた)の曲☆	箏ソロ(二十一) [註]ここから二十一絃 になる	野坂恵子(委嘱)	9 + 9	(出)全音 (レ)ビクター、カメラータ (CD)カメラータ30CM55
	阿波の子タヌキ譚	笛、尺3(ひ)、細、琵琶、 十三2(胡)、二十一、 十七、打3 児童合唱、バリトン	日本音楽集団 徳島少年少女合唱団 バリトン 中村義春 指揮 田村拓男	24	(レ)コロムビア 四国放送委嘱 芸術祭優秀賞 富士正晴 詩
	雅びのうた } 鄙ぶりの踊り }	尺、十七	宮田耕八朗 宮本幸子(委嘱)	6 + 9	(出)全音—雅びのうた (レ)コロムビア—雅びのうた
1972	わらべ唄によせて	箏ソロ(十三)	野坂恵子	4	(レ)コロムビア NHK委嘱
	パーティシペイション I、II、III	いかなる邦楽器でも参 加できる二重奏(打を 加えると三重奏)	日本音楽集団	各3	邦楽器合奏教本として作曲
	ね・うし・とら・う } よっ こん こん }	歌と邦楽器アンサン ブル	NHK歌のえほん(委嘱)	1.5 + 1.5	(出)日本放送出版協会 (ピアノ伴奏譜) 阪田寛夫 詩
	相聞II	箏ソロ(二十一) 混声合唱ヴォーカリーズ	野坂恵子 日本合唱協会(委嘱) 指揮 山田一雄	15	
1973	ね・とり (開幕のためのセレモニー)	能、尺2、三1~2、琵琶1~2、 二十一、十三、十七、打2	日本音楽集団 指揮 荒谷俊治	16	
	箏(こと)初音(はつね)集(のうち5曲)	箏ソロ(十三)	野坂恵子	各2~3	十三絃箏初心者用('78参照)
	白燿(はくよう) ☆	ヴァイオリン 箏(二十一)	ローラ・ボベスコ 野坂恵子	27	(レ)カメラータ メニューヒン委嘱
	夕影の詩(ゆうかげのうた)	尺、十三、三	宮田耕八朗、野坂恵子、 吉川富子	7	(出)全音 (レ)カメラータ

年	曲名	編成	初演者	時間(分)	各種データ
	パーティシペイションⅣ・Ⅴ・Ⅵ	いかなる邦楽器でも参加できる二重奏(打を加えると三重奏)	日本音楽集団	各3	邦楽器合奏教本つづき
	ダンス・コンセルタント第一番 〈四季〉 (踊る春、水巡る、秋そして) (風の花、エビローグ)	笛、尺2、三、琵琶、 十三2、十七、打2	日本音楽集団 指揮 田村拓男	20	(レ)カメラータ (CD)カメラータ32CM54
	箏双重(ことふたえ)	十三2	中谷勝子、森千恵子	11	(出)全音 箏三人会委嘱
1974	狐影	尺八ソロ(一部に十三、 小鼓)	横山勝也 (宮下伸、堅田啓輝)	21 ソロは10	クロード・ガニオン氏のフィ ルムのために
	破の曲(箏協奏曲第一番)☆	箏ソロ(二十一) 二管編成オーケストラ	野坂恵子 NHK交響楽団 指揮 秋山和慶	24	(出)音友 (レ)カメラータ (CD)カメラータ30CM223 キングKICC2019 NHK委嘱
	奔手(ほんじゅ)	三味線ソロ	杉浦弘和(委嘱)	9	(レ)RCA、カメラータ
	文様(あや)II	十三2、十七	さわらび会(委嘱)	7	
	夢魔(むま)のしらべ (舟唄、乞食唄、子守唄)	弾き歌いの箏、コント ラバス	小沢道(委嘱) コントラバス 松本善明	2+2+6	秋浜悟史 詩
	松の曲	尺、三、二十一ソロ、十 三2、十七、女声二部合 唱(各声部多数可)	松の実会合奏団、合唱団 野坂恵子ソロ(カデンツァも) 指揮 三木稔	16	松の実会委嘱 歌詞 金塊和歌集より
	KI・DO・AI・RAKU	(打)、琵琶、尺、十三ソロ 男声合唱または混声合 唱	田中行雄、福田輝久、 飯吉圭子 東京リーダーターフェル(委嘱)	5+3+ 6+7	混声合唱との版('90) 未初演 秋浜悟史 詩
1975	春琴抄 オペラ全3幕	箏ソロ(二十一)(十三) 地歌三味線(尺八オプシ ョン) オーケストラ 二十人の歌手と女声合唱	主箏・三味線 野坂恵子 副箏・三味線 吉村七重 新星日響 日本オペラ協会(委嘱) 指揮 山田一雄 演出 観世栄夫	125	(出)全音 原作 谷崎潤一郎 台本 まえだ純
	ひなぶり ☆	二十一、フルート(尺八)	野坂恵子 S.ガッツローニ	10	(レ)カメラータ 〈鄙ぶりの踊り〉改作
1976	わ	尺、三、琵琶、二十一、 十七、打	日本音楽集団 (宮田、杉浦、半田、 野坂、宮本、三木)	15 (+カデン ツァ)	(出)日本作曲家協議会 (レ)カメラータ (CD)カメラータ30CM54
	和讃による交響	箏ソロ(二十一) 能管ソロ バス・ソロ オーケストラ 女声合唱	野坂恵子、藤田昭彦、 桜井直樹 名古屋音大オーケストラ と女声合唱団 指揮 横井園生	22	名古屋音大開学記念委嘱 親鸞生誕800年記念 親鸞の和讃7首使用
	破漢の花	二十一、ソプラノ	野坂恵子、砂原美智子	15	花柳徳助委嘱
	箏(こと)譚詩集第二集☆ (芽生え、やよい、ひばり) (里曲(さとわ)、華やぎ)	箏ソロ(二十一)	野坂恵子(委嘱)	18	(レ)カメラータ 他 (CD)カメラータ32CM55 〈華やぎ〉のみ
	うらかぐら「星界の報告」	各種邦楽器を含む即興 的音楽劇	日本音楽集団 春秋団 ほか	60	台本 秋浜悟史 演出 岡村春彦
	十二月謡(つきうた)	各種邦楽器と歌	同上	11	「星界の報告」の各月のはじま り部分。独立演奏できる。
	巨火(ほと)	笛2、尺3、胡、細、太、琵琶2、 二十一、十三、十七、打4	日本音楽集団 指揮 田村拓男	30	(レ)カメラータ (CD)カメラータ32CM54
1977	タロウ お伽草子(cantata)6景	笛、尺3、胡、細、太、琵琶(タ ンプーラ)、二十一2、 十三2、十七2、打3 児童合唱、独唱5	日本音楽集団 NHK児童合唱団 ほか 指揮 尾高忠明	57	NHK委嘱
	流琵琶(るび)	琵琶ソロ	山田美喜子(委嘱)	9	
	ダンス・コンセルタント第2番 〈鳴門秘帖〉 (プロローグ、千絵の曲抄、プロムナードA、おかしな悪人たち、 プロムナードB、おつなラブソディー抄、山千鶴抄、月夜の剣士)	笛、尺2、胡、細、太、琵琶、 二十一、十三、十七、打2	日本音楽集団 指揮 田村拓男	15	NHKテレビ連続テレビドラマ 〈鳴門秘帖〉劇音楽より (レ)東芝
	歌楽 くまぼろしの米 ☆	箏(二十一) 語り	野坂恵子(委嘱) 伊藤惣一	18	(出)音友 「音芸」付録 (レ)カメラータ 秋浜悟史 詩 英・独語版あり
	序曲と春鶯囀(春琴抄より)☆ (箏協奏曲第2番)	箏ソロ(二十一) オーケストラ	野坂恵子 名フィル 指揮 荒谷俊治	18	(レ)カメラータ

年	曲名	編成	初演者	時間(分)	各種データ	
1978	箏初音集('73のつづき) (ことの葉、幼い祈り、なごり、誕生日の贈りもの、つぎなあに、つかまえた、うたⅠ、うたⅡ、) お手玉、ねうしとらう、尾根の上の鳥たち、水辺の囁、雨の湖のヨットとかもめたち	箏ソロ(十三)	野坂恵子	各2~3	十三絃箏初心者用	
	哀一鹿の速音	尺八ソロ 弦楽合奏	山本邦山 名フィル 指揮 荒谷俊治	6~9		
	創作舞踊詩<鶴>	尺、胡、琵琶、二十一2、 打、歌	日本音楽集団 他 指揮 三木稔	57	二代目西崎緑舞踊公演のために (委嘱) 台本 蓬茨泰三	
	歌楽<鶴>	尺、二十一2 謡い語り	宮田耕八朗、野坂恵子、 吉村七重、伊藤惣一	30	作 蓬茨泰三	
1979	あだ An Actor's Revenge オペラ全二幕 (英語が原作曲)	二十一、細、小鼓 8人の歌手と合唱 オーケストラ	野坂恵子、今藤早苗、 高橋明邦 English Music Theatre (委嘱) EMT Ensemble 指揮 Stuart Bedford 演出 Colin Graham	140	(出)FABER MUSIC ロンドン 日本では全音が代行 原作 雪之丞変化 台本 James Kircup 英・独・日本語で出版	
	三つ山挽唱 舞踊劇	三味線ソロ オーケストラ、合唱	杉浦弘和、特編オケ・合唱 指揮 三木稔	70	日本舞踊協会委嘱	
	東から ☆ (第二部は五段の調) ——☆印の作品を収録したカメラータ・レコード「野坂恵子・三木稔/二十絃箏の世界」('79) が芸術祭優秀賞——	箏ソロ(二十一)	野坂恵子	13 7	(レ)カメラータ(委嘱)	
	松よ	笛、尺、二十一ソロ、二 十一、十三3 (各声部 多数可) 合唱	松の実会合奏団、合唱団 野坂恵子 ソロ 指揮 坂田誠山	15	松の実会委嘱 (出)みきねんコレクション 三木稔 詩	
	紫の譜	三味線ソロ(一部弾き歌い)	矢崎明子(委嘱)	12		
	ニューかがらうた 鬼って一体なんだろう }	各種邦楽器と歌	{日本音楽集団} {友竹正則 他}	5 3	かがら1979用	
	1980	ダンス・コンセルタント第3番 <八郎物語> (さすらいの歌、タツコ節を含む)	笛、尺、三、琵琶、二十一、 十七、打(歌・語りオブ ション)	日本音楽集団 歌・語り 稲垣隆史	21	(レ)カメラータ かかし座(委嘱)の影絵のため の音楽より構成
		しおさい	二十一、チェロ	野坂恵子、H.Brauel	8	(レ)(CD)カメラータ30CM208
		小組曲 (星のまつり、月の出、なぎさと太陽)	笛、尺、胡、琵琶、三、 十三2、十七、打	日本音楽集団 指揮 田村拓男	5+5+4	日本音楽集団夏期合奏研究会 教材用に作曲(パート選択可)
		田舞のロンド	笛、細、中、太、打、アングルン	日本音楽集団	8	
阿波の狸囃子 (浮拍子、ばかし打ち、狸ぶし、) もちつき太鼓、あばれ狸		大狸鼓、豆狸鼓、木魚 笛、三、歌	阿波の狸囃子連	7	「阿波の狸まつり」のために献 呈	
秋の曲 Autumn Fantasy		尺八 二十一	坂田誠山(委嘱) 野坂恵子	14	(出)音友一フルート・ピアノ版 (レ)(CD)カメラータ32CM155	
歌楽<べろ出しチョンマ>		二十一 歌い語り	野坂恵子 友竹正則	28	(出)全音 (レ)(CD)カメラータ32CM143	
1981	コンチェルト・レクイエム (箏協奏曲第三番)	箏ソロ(二十一)、笛2、尺6、 胡、琵琶、太、二十一、十七、打4	野坂恵子、日本音楽集団 指揮 田村拓男	23	(レ)(CD)カメラータ32CM55	
	レクイエム・ロンターノ	箏ソロ(二十一) シンセサイザー	木村玲子、大森俊之	23	'87<コンチェルト・レクイエム> の別Versionとして制作	
	いわきおどり (着到、いわき節、和勢)	尺、三、囃子、歌	日本音楽集団 金沢明子、鈴木正夫	10	いわき祭りのためいわき市よ り委嘱	
	急の曲 Symphony for Two Worlds	笛、尺2、細、太、琵琶、 二十一2、十七2、打4 オーケストラ	日本音楽集団 Gewandhaus Orchestra (委嘱) 指揮 Kurt Masur	36	(出)全音 欧米はPeters (レ)カメラータ Eterna (CD)カメラータ30CM224 ゲヴァントハウス管弦楽団命名 200年、新ゲヴァントハウス開 館記念委嘱	
	——序の曲・破の曲・急の曲をあわせ<鳳凰三連 Eurasian Trilogy>とする——					
	1982	ソネットⅡ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ (Ⅱ七タの曲、Ⅲ山千禽、Ⅴ金閣譜)	尺2/尺1/尺3/尺4	各日本音楽集団々員	3+3+ 6+6	(出)誠和音芸
箏初音集('73、'78のつづき) (悲しいけれど、平調子をつくろう、初音Ⅰ、初音Ⅱ)		箏ソロ(十三)	野坂恵子	各2~3	この時までには17曲	
箏初音集二十絃箏篇 (二つの階段で、色直し、ドローン、うた)		箏ソロ(二十一)	野坂恵子	各2~3		
峠の向かうに何があるか 合唱劇全11場		笛、尺、細、太、琵琶、 二十一、十七、打 歌手6人、混声合唱	日本音楽集団、名古屋グ リーン・エコー(委嘱) 指揮 三木稔	105 音楽部分 82	作 山崎正和 演出 伊豫田静弘	
三味線奇重奏		三味線2	花房はるえ、太田幸子	2	<峠の向かう…>劇中音楽の一つ	
わらべ歌風歌楽<月の兎>		三味線と謡い語り 笛、打	谷珠美(委嘱) 望月太八、尾崎太一	17	太神版91	

年	曲名	編成	初演者	時間(分)	各種データ
	カシオペア21	二十一 5 (短、低含む)	野坂恵子、吉村七重、滝田美智子、中丸春美、藏本エリ子	15	野坂恵子二十絃エコー委嘱
	結(ゆい) I	笙2 ピアノ	多忠慮、宮田まゆみ 奥平八重子(委嘱)	14	
1983	彩紅(さいこう)序曲	笛、尺2、琵琶、細、太、二十一、十三、十七、打2 中国楽器オーケストラ	日本音楽集団 北京中央民族楽団 指揮 田村拓男	9	民族楽器オーケストラ同志の共演の始まり(3月5日、於・北京紅塔礼堂)
	かわれの詩(うた)	二十一 2	内藤洋子、久子(委嘱)	6	
	箏譚詩集第3集 (露一つ、南へ、サヌールの舞姫、白い風の下で、雨ざんざん)	箏ソロ(二十一)	滝田美智子(委嘱)	18	
	うたよみざる ミュージカル・オペラ全2幕	二十一、笛(尺)、ガムラン打楽器 12人の歌手	野坂恵子、張曉輝、佐藤康和 芸団協自主公演歌手たち 指揮と打 三木稔	113 音楽部分 80	(出)全音、芸団協委嘱 作 川村光夫 演出 ふじたあさや
	AUGUST, 1945	箏ソロ(二十一) オーケストラ	野坂恵子 日本フィル 指揮 三木稔	5	「反核日本の音楽家たち」オーケストラ・メッセージ'83のために作曲
	森よ くしおさいとあわせく結(ゆい) II	箏(二十一)、チェロ	吉村七重(委嘱)、堀了介	11	(レ)(CD)カメラータ30CM208
1984	松の協奏曲 (箏協奏曲第4番)	箏ソロ(二十一)、尺、三、十三、十七(各声部多数可)	野坂恵子、松の実会合奏団 指揮 三木稔	20	松の実会60周年記念委嘱
	ラブソディー	箏ソロ(二十一)	この形未上演	15	<松の協奏曲>のソロ部分
	ダンス・コンチェルト第4番 〈北の詩(うた)〉 (夜明け、ユリの踊り、虫たちの踊り、精霊の舞、おどけ、大地に舞う)	笛、尺2、胡、三、琵琶、二十一、十三、十七、打2	日本音楽集団 指揮 田村拓男	23	'81北海道邦楽舞協会委嘱 「四季絵巻北海道、天と地と人」より再作曲
1985	結(ゆい) III Flowers and Water	尺、二十一、太 弦楽四重奏、ハーブ	坂田誠山、吉村七重、田中悠美子 セントルイス響の5人の奏者 指揮 三木稔	13	岩波映画「水色花舞」の劇中音楽作曲に際し、この曲を想定して作る
	じょうり JŌRURI オペラ全三幕(英語が原作曲)	尺、二十一、太 オーケストラ 7人の歌手	坂田誠山、吉村七重、田中悠美子 St.Louis Symphony Orchestra Opera Theatre of St.Louis 指揮 Joseph Resigno 演出 Colin Graham	150	(出)全音 (LD)(Video)日本モニター セントルイス・オペラ劇場第10シーズン記念委嘱 作 コリン・グレアム
	箏協奏曲第5番	箏ソロ(二十一) オーケストラ	この形未上演	15+α	<じょうり>の序曲、二幕前奏曲とシーン1、三幕間奏曲で構成
	花園にて ミニ・オペラ	笛、伽耶琴、Vib-drums、 タンブーラ(と指揮) 4人の歌手	西川浩平、原谷浩美、田村拓男 三木稔(指揮) 瀬山詠子、中村邦子、 立川澄人、中村健	20	「反核日本の音楽家たち」オムニバス・オペラ・メッセージ'85の一作として作曲、プロデュース。台本・演出 ふじたあさや
	瑠璃秘曲	尺八ソロ	坂田誠山	10	<じょうり>尺八旋律より構成
1986	蛙ファンタジー	笛(尺)他楽器、12人歌手	竹井誠 他	45	'92<よみがえる>に吸収
1989	SOUL I 鎮魂 II 振魂	笛、尺3、胡、細、太、琵琶 二十一、十三、十七、打4 韓国民族楽器オーケストラ	日本音楽集団(委嘱) 韓国中央国楽管弦楽団 指揮 田村拓男	24	IIは<巨火>を援用
1990	上山かかし囃子 (かかし登場囃子、かかしらべ、カラコロンバ、こと囃子、プガロ太鼓、中国風カオレン楽)	笛、二十一、マリンバ、打	上山かかし囃子連	20	上山観光協会委嘱
	箏譚詩集第4集 (西風の便り、湖の塔、渡る鳥、案山子考、月光と旅路)	箏ソロ(二十一)	木村玲子(委嘱)	21	箏譚詩集シリーズ完結
1991	義経太鼓	各種打楽器	小松島青年団連合会メンバー	4	小松島市委嘱
	金長太鼓	笛、各種打楽器	小松島青年会議所メンバー	4~6	同上
1992	よみがえる ミュージカル・オペラ全二幕	笛(尺)、打、シンセサイザー ドラムマシーン、サンプラー 十数人の歌手と合唱	藤崎重康、添川浩史、臼杵美智代、歌座の歌手たち 総監督 三木稔	86	<蛙ファンタジー>を基に追加構成・演出 ふじたあさや
	オロチ伝 オペラ全一幕	尺、打、ピアノ、トロンボーン 十数人の歌手と踊り手	添川浩史、臼杵美智代 他 歌座の歌手たち 指揮 高橋明邦	40	'90<天王はんとヤマタノオロチ>に神楽部分を加え新作。 作・演出 ふじたあさや
	黄の鐘(きのかね)	笛、龍、笙、ひ、尺2、胡、細、中、太、琵琶、二十一 2、十七、打3、ソプラノ・ソロ	日本音楽集団(委嘱) ソプラノ 宇佐美瑠璃 指揮 飯森範親	33	

他に、他楽器のための自作からの編曲作品がいくつかある。

<三つの阿波のわらべ歌> 尺、三、十三、十七、打 <三つのフェスタル・バラード> 二十一 3、十七 <夏の叙事詩> 尺、二十一 3、十七
笛=篠笛・能管、龍=龍笛、ひ=ひちりき 尺=尺八、胡=胡弓、三=三味線、細=細裃三味線、中=中裃三味線、
(省略字について) 太=太裃三味線、琵琶=琵琶、二十一=箏(21絃)、十三=箏(13絃)、十七=十七絃、打=各種打楽器、
(出)=出版社、(レ)=レコード会社

●この表は黒田義男・房岡氏(阿南市)の御協賛によって製作されました。

お知らせ

★団員・研修生募集

日本音楽集団では来年3月22日(月)、団員及び研修生募集のためのオーディションを行います。古典から現代の日本音楽の演奏を、ソロからアンサンブルまで、プロの演奏家として東京を中心に団の活動に恒常的に参加できる人で、年齢は特に問いません。(詳細は事務局へお問い合わせ下さい。)

★コンサートのご案内

新年早々に二つの大きなコンサートがあります。

●一つは埼玉音鑑主催(1月22日(金) 大宮ソニック・シティ 18:30開演)で、集団の大編成曲「巨火(はて)」(三木作曲)を含むプログラムのコンサートが開かれます。他に、「日本のうた」(うた=吉武まつ子)、「華やぎ」(二十絃ソロ)など。

●もう一つは、葛飾区コンサート(1月23日(土) かつしかシンフォニーヒルズ 15:00開演)で、「巨火」の他に「大津絵幻想」(長沢勝俊作曲)を日本舞踊(花柳千代一門)と共演することになっています。(葛飾区コンサートは集団事務局でもチケット取扱い中)

集団の定期ではなかなか登場しないこれらのプログラムを、この機会に是非お楽しみ下さい。



アイ・エム・エス ●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻 2-21-25
オリオンシャトー1F
PHONE. 03-3397-2292
FAX. 03-3397-7728

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437